

西香川病院の設置主体は三豊市であり、指定管理者制度により三豊・観音寺市医師会がその運営にあたっている。三豊市立西香川病院の将来像を提示するには、三豊市を中心に地域の医療・介護計画について議論を積み重ねる必要があるが、今回の議論の中で求められているものとして、現在までの経緯とそれに基づく枠組みの中で、西香川病院の行なっている事業を概説するとともに、短期についての将来計画を提示し、通所介護事業を始めとした介護保険事業の位置づけを示したい。

西香川病院は高瀬町立病院として国から移譲されるにあたり、地域における医療、保健、福祉を担う施設としての役割を期待された。旧高瀬町を含む三豊市全域は既に全国平均を上回る高齢地域であり、高齢者対策は不可欠なものであることから、行政機構の1つとしての西香川病院の大きな役割は地域における高齢者対策という方向づけがなされてきた。また、地域全体としての既存医療機関や福祉サービスの中での位置づけとして、急性期ではなく、回復期や慢性期医療と福祉との連携、ならびに保健活動に特化した運営を行ってきた。

また、公設民営方式により三豊・観音寺市医師会を指定管理者として運営しており、開設以来、一般会計の持ち出しによる繰り入れを全く行なわない健全経営にて運営できている。

要介護状態となった高齢者の過半数には程度の差こそあれ認知症が認められる。つまり、認知症は特殊な状態ではなく、高齢者対策は認知症を含む高齢者対策としてとらえるべきである。開設以来、西香川病院では特に認知症を中心とした医療、介護を充実させてきた。前述のごとく認知症と高齢者対策は不可分のものであるが、西香川病院の事業を整理するため、ここでは特に1) 認知症についての事業、2) 認知症以外の一般的な高齢者対応事業、3) 保健関連事業、に分けて述べる。

## 1. 高齢者の医療・保健・福祉を担う施設として

### A) 認知症について

高齢者対策に特化し、特に近年増加が著しく、また将来にわたって大きな問題となる認知症対策に重点を置き、ユニットケアとして環境整備ときめ細かい個別ケアによる認知症のより良いケアの確立と、地域における「認知症センター」としての位置づけを目標としている。

#### 1) 病棟

平成12年の開設時から精神科病棟50床を認知症専門病棟として運用している。認知症の患者さんの療養環境を整備し、より充実した認知症のユニットケアを実践すべく、病棟の増改築を計画している。

単に認知症患者さんに療養していただく施設としてだけでなく、認知症ケアのモデル施設として近隣の医療・介護施設にノウハウを提供し、研修を受け入れるなどの活動により、地域の認知症ケアのレベル向上に貢献したい。

#### 2) 外来

精神科外来は、「ものわずれ外来」をはじめ認知症患者さんを多く受け入れている。

今後、かかりつけ医や地域の福祉サービスとくにケアマネージャーとの連携を重視したい。具体的には医師だけでなく、ソーシャルワーカー、心理療法士などによる相談業務を重視し、認知症患者さんや御家族の日常生活についてのきめ細かい問題解決をはかってゆける施設を目標とする。

#### 3) デイケア（医療保険）

平成15年4月から医療保険による認知症デイケア2単位（50名）を運用してきた。医療保険で運用するデイケアとして、医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士などの専門職を配置し、リハビリテーションの考え方を取り入れて積極的に残存能力の活用という観点からのケアを行な

ってきた。ユニット化を行い、50名という大人数を細かく分けての個別ケアを行なっている。デイケアにおいても、ケアのレベルを上げ、モデル施設として地域の認知症ケアの向上に貢献してゆきたい。

今回（平成18年4月）の医療報酬改定において、デイケア（医療保険）の点数は、13,000円 → 10,000円へと大幅に削られている。次回（平成20年4月）の医療報酬改定では、更に大きく削り込まれるか、医療保険では認められない可能性さえ考えられる。その場合は介護サービスに移行せざるを得ない。したがって、平成20年には介護保険によるデイサービスへの移行（通所介護事業への移行）も視野に置かねばならないと考えている。

#### 4) 小規模通所介護

今回、申請させていただいている事業である。

10名以内の通所介護（デイサービス）施設としてスタートするが、目的は「地域づくり」であり、地域の方に参加していただけるサロン、介護についての勉強会・講習会、季節の催しなど地域の方との交流を深めてゆく。その中で地域の啓蒙活動や認知症を含めた高齢者介護の認識が高まり、地域が「慣れ親しんだ地域で最期まで住み続けられる」地域となってゆく事が期待される。運用してゆく中で地域のニーズに応え、宿泊サービスや在宅サービスあるいはケアマネジメントなどの機能を追加し、国が提示するような小規模な中でサービスが完結できる地域をめざす。

「小規模多機能施設」は平成18年から平成20年までの3年間について策定された三豊市の第3次介護保険計画の中で28名と設定しており、また、施設基準の上からも正式な「小規模多機能施設」とはなり得ないが、運用の中で「小規模多機能施設」的な機能を付加してゆく事も考えたい。このモデルがうまく行けば、そのノウハウは一般事業所も含め公開し、三豊市の福祉の向上も含めた「地域づくり」に貢献したい。

今後の展開について；

「地域づくり」という観点からしても、上記のごとくの計画を既存サービスの多い地域で行なう理由はない。ただ、三豊市の全体計画の中でサービスが希薄で住民からのニーズのある地域があれば、第2のモデル地区として同様の試みを行なってゆくことも視野に入れたい。このような介護保険事業における地域密着型サービスの許認可権は三豊市にあり、すべて三豊市全体の福祉計画の枠組みの中で行われるため、計画は三豊市の全体計画にのっとり、三豊市との協議によることは言うまでもない。

#### 5) 啓蒙活動

春と秋の年2回、認知症についての講演会を行い、広報・啓蒙活動としている。今回は11月19日に、厚労省認知症対策推進室から池田武俊氏に来ていただく予定である。氏は大牟田市で地域福祉を充実させた実績があり、三豊市としても地域づくりの参考になると期待する。

今後、高齢者の数は増加の一途をたどる。認知症の方を含め、増え続ける高齢者を医療保険と介護保険のサービスだけで支えきれないものではない。地域のインフォーマルなサービスやボランティアの活用により、地域全体として高齢者を支えてゆく仕組みづくりが必要とされ、国が「2015年の高齢者介護」としたその指針の中で示している。

高齢者の方が住み続ける事ができる「地域づくり」こそが、認知症を含む高齢者対策の中心となるべきであり、「認知症センター」として西香川病院が目ざし、三豊市の高齢者福祉に貢献しようとするものである。

#### B) その他の高齢者対応について

##### 1) 医療療養病棟（40床）

平成18年7月より「回復期リハビリテーション病棟」として運用している。

「地域としての完結」という考え方に基づき、病院の機能分化、役割分担はより明確にされつつある。三豊総合病院、善通寺病院、香川労災病院など急性期特定機能病院にて急性期治療を終えた患者さんの受け皿としてリハビリテーションを行い、在宅生活に戻っていただくための病棟として40床の医療療養病棟を当てている。

リハビリテーションに関係するスタッフや看護師をはじめ多くの人員を必要とし、患者さんの入院可能日数も制限されるなど条件は厳しい。対象患者確保として急性期病院との連携、退院促進のための自院の在宅支援の充実、他の介護サービスとの連携、入所可能な介護施設との連携など、多くの因子を克服してゆかなければならない。

収益面からもこれを維持してゆく。

## 2) 介護療養病床 (60床)

現状は30床ずつの2つの病棟 (1階と2階) に分けて運用している。いずれも対象は要介護4と5という重度の障害をもった方に利用していただいている。

2階は医療の度合いの大きな患者さん (気管切開や胃瘻造設を受けている方) に多く利用していただいている。現状では介護施設での介護は非常に困難で、病院の療養型病床を利用せざるを得ない方達である。

1階は重度の介護状態であるが、施設介護が可能なレベルの方が多く利用している。回復期リハビリテーション病棟入院の制限が過ぎたが、利用ベッドが無いなどの理由により他の介護施設に移れない方がほとんどであり、長期にわたるリハビリテーションを受けながら施設入所を待っていただいている状態である。

2013年には介護療養病床は廃止されることが決定されている。介護療養病床の将来像については、三豊市全体の医療・福祉の将来像に基づいての議論が必要である。また、時間的な猶予のあることから、地域における医療・介護サービスの状況などを勘案し、今後の方向づけを検討したい。

## 3) 外来

高齢者を中心とした外来であるが、地域のニーズにも応える形で一般内科外来も行なっている。またCT検査や内視鏡検査は地域のかかりつけ医からの依頼も受けている。

## 4) 在宅部門 (居宅支援事業所、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーションセンター)

医療と連携のとれる在宅部門として運用している。特に最近では癌の末期など、医療の必要な利用者が増加しつつある。

また、訪問リハビリテーションは回復期リハビリテーション病棟からのスムーズな退院・在宅復帰に重要な役割を果たしている。

国の医療政策が病院や施設から在宅への移行を旨としており、その受け皿として在宅部門は今後、更に重要となってくる。

訪問看護を補充するものとして、訪問介護部門を立ち上げ、サービスの充実に勤めたい。

また、今回の医療報酬改定で医療保険によるリハビリテーション可能な期間が制限される事から、それを補充するものとして通所リハビリテーション施設も立ち上げる予定にしている。

## 保健事業について

### 人間ドック

高瀬町立病院時代（平成17年度まで）は700名余りの人間ドックを行なってきた。

三豊市立病院となり、平成18年度は1200名近い予約をいただき、現在実施中である。

腹部超音波、マンモグラフィーや経鼻胃内視鏡（鼻からの苦痛の少ない胃カメラ）を導入し、充実に努めている。CT検査、大腸内視鏡検査、心臓超音波検査などの精密検査についても対応可能な体制としている。

今後、より充実したものとするために、ポリープ切除など内視鏡的治療についても充実させて行く。

#### 一般健康診断、企業検診

これらについても可能な範囲で対応している。